

# 自然観察 NOW

NO : 73

野幌森林公園自然情報

発行 : 2023年9月9日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



今年の夏は記録な猛暑、その長きにわたる暑さもやっと和らいで、野幌の森に秋の気配を感じさせる頃になりました。そして、あちこちで、秋を彩る花々が咲き出してきています。ヨツバヒヨドリやサラシナショウマなど秋の花が咲く中、初秋の野幌の森には、野幌で冬を越すツグミなどの“冬鳥”の姿もそろそろ見られる頃です。更に、春から夏に単独で生活していた“留鳥”の、亜種シマエナガや、シジウカラなどの鳥たちも、種をこえて集団を作る“混群”も見られることでしょう。

森でにぎわう花々を見つめ、鳥たちの声や、姿を見ながら、涼やかな秋の野幌の森を楽しみましょう。

## 野幌の秋の森に集う冬鳥や、水鳥を見つめてみよう！！

### ○ マヒワ（真鶉） スズメ目 アトリ科 マヒワ属

スズメより一回り小さく、小柄で黄色味が鮮やかな衣装が自慢の鳥で、集団で生活し移動する。

木の梢に集まり木の実を食べる姿や、にぎやかに鳴き交わしながら飛んでいる姿をよく目にする。

（分布） 北海道全域で冬鳥、または留鳥（漂鳥）。全国で冬鳥。

世界的には、日本を含む東アジアと、ヨーロッパ周辺という、東西に分かれた特異な分布をする。

北海道では、平地から山地の林に分布する。北海道の一部と、本州中部の山地で繁殖する。

（学名）*Carduelis spinus* は、「ゴキヒワ（アカザを好む鳥）のマヒワ」の意味。（英語名）Siskin

（中国名）黄雀

（名前の由来）真鶉は、「ヒワのなかのヒワ」を意味する。ヒワは、小さくて繊細なことを意味する「ひわやか」に由来するなどの説。

【姿・色】雌雄異色。夏冬異色。雄は全体に黄色。下腹部には白い縦斑がある。頭と喉が黒い。背は黄色の帯と、黒い部分のコントラスト。嘴はピンク色。雌は全体に黄色味が薄い。下面は白っぽく、太い縦斑が目立つ。雄雌ともに尾羽は黒く、外側の基部が黄色。

【生態】北方から秋に北海道に渡って来る冬鳥の他に、北海道では、夏に高山の森で子育てをし、秋に山から下りて来るものもいる。食性は種子専門のベジタリアン。ハンノキやシラカバなどの小さい樹木の種子を食べる。

【鳴き声】“さえざり”は、チュルチュルチーチュイン、チュルチュルジュクジュクチュインチチチュイなど。“地鳴き”は、チュイン、ジュインなどと鳴く。



## かな網の大鳥籠に木を栽ゑて ほつ枝下枝に鶉飛びわたる（正岡子規）

※「冬鳥」とは、越冬するために日本にやってくる渡り鳥のこと。秋に渡って来て冬を過ごし、春に北方へ渡って繁殖する鳥のことを言う。ちなみに、秋野幌の森にやって来て、冬を越す鳥を「冬鳥」と言う。

○ オシドリ（鴛鴦） カモ目 カモ科 オシドリ属

ドングリが大好き。子育ては樹洞です、森の水鳥。古来「おしどり夫婦」と呼ばれるのは、この鳥の雄と雌の仲睦まじい様子を評して。秋から冬の求愛シーズンには、雄は頭の冠羽を逆立て、銀杏の葉の形の飾り羽を立てて、派手にディスプレイをする。

(分布) 北海道全域で夏鳥、または留鳥。

本州以南でも留鳥、夏鳥。

世界的には、朝鮮半島から中国東北部で繁殖するだけで分布は狭い。越冬地も中国南東部に限られる。

(学名) *Aix galericulata* は、「帽子をかぶった水鳥」



(英語名) Mandarin Duck (中国名) 鴛鴦、鄧木鳥 (アイヌ語名) チライマチリ (イトウ・鳥)

(名前の由来) 雌雄の仲が良く、寄り添うようにして休むことが多い。「雌雄相愛(を)しの鳥」からオシドリの名が付いたと言う説など。

【姿・色】雌雄異色。夏冬異色。雄の羽色は複雑で特徴的で、独特。頭に冠羽、三列風切の一枚で三角帆型の「銀杏羽」と呼ばれる飾り羽を起こす。嘴は赤く先端が白い。雌は全体的に灰褐色で、嘴は灰黒色。白いアイリングから後方に伸びる白線がある。雄“エクリプス”は、雌に似るが、嘴は赤い。

【生態】淡水ガモ(水面採餌ガモ)。北海道全域の湖沼に生育。樹洞に営巣し、繁殖する。道内では一部越冬する。都市部の公園の池などに飛来することもある。食性はミズナラのドングリなどの木の実は好んで食べる。水生昆虫も食す。クマゲラの古巣を利用して子育てした例もある。

【鳴き声】雄はピューー、ビューイー。ピュピュピュピュなど。雌はケエツ、ケエツ。ウイップ。クアッなどと鳴く。

【婚姻関係】「おしどり夫婦」と呼ばれるが、繁殖期ごとに“つがい関係”が解消される。毎年“つがい”が変わる。これは、他のカモ類も同様である。抱卵や子育てにはいっさい関わらない。

☆ 野鳥一口メモ 野幌森林公園の水鳥 ～(カモ類)～

1. カモ類の分類: カモ類は、①淡水ガモ(水面採餌ガモ)と②潜水ガモ(潜水採餌ガモ)に分類される。採餌の際に、水中にあまり深く潜らずに、種子や水草などを採って食べるカモ類を「淡水ガモ」と言い、水中深く潜って、海藻・魚やエビなどや貝類などを採って食べるカモ類を「潜水ガモ」と言う。野幌の大沢の池に来るカモ類は、①淡水ガモでは、マガモ・コガモ・カルガモ・オシドリ・ヒドリガモ・ヨシガモ・オナガガモなど。②潜水ガモには、キンクロハジロ・スズガモなどがいる。

2. エクリプスとは?: 特に、水鳥のカモ類の雄は、繁殖期になると美しい繁殖羽で、雌に求愛する。ところが、繁殖期が終わると、雌のように地味な羽になる。その非繁殖羽を「エクリプス」と言う。しかし、雄の嘴の色などは繁殖期とは変わらないので、そこに注目すると、雌と見分けられる。

○ (主な参考文献) 北海道野鳥図鑑(亜璃西社)・北海道野鳥ハンディガイド(北海道新聞社) フィールド図鑑日本の野鳥(第2版)(文一総合出版)・北海道野鳥愛護会「野鳥だより」他。

★10月の観察会の予定

☆「秋の森の観察会」10月5日(木) 集合9:50 10:00~11:30(集合:自然ふれあい交流館)

文責(道場 優(どうじょう まさる))